

通し回遊魚

生活環のある時期に規則的に川と海の間を回遊する魚種



アユ 【キュウリウオ科】
全長は、地域差や個体差があり、10-30cmほどである。石についた藻類を食べる。



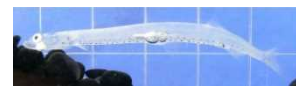
ウナギ 【ウナギ科】
全長1mほど。甲殻類や水生昆虫、カエル、小魚などを食べる。



サケ 【サケ科】
全長で65cmほど。1-6年の海洋生活後、母川で産卵する。



ワカサギ【キュウリウオ科】
全長14cmほど。細長くひれは小さい。背びれの後ろに小さなあぶらびれがある。



シラウオ【シラウオ科】
全長5-10cmほど。プランクトンを食べる。産卵後に1年間の一生を終える。

周縁性淡水魚

元来は海産であるが汽水域や一時的に淡水域に侵入する魚種



スズキ 【スズキ科】
全長1mほど。肉食性である。成長につれて呼び名が変わる出世魚である。



マハゼ 【ハゼ科】
全長13-25cmほど。産卵期は1月から5月。肉食性が強いが、藻類を食べることもある。



クロダイ 【タイ科】
全長70cmほど。産卵は春に海域で行う。小魚や甲殻類、貝類など様々な小動物を食べる。



ボラ 【ボラ科】
全長60cmほど。河口や汽水域に多く生息する。水面上にジャンプする。雑食性である。

涸沼は汽水湖

涸沼は、淡水と海水が混じり合った関東唯一の汽水湖です。汽水域で採取できるヤマトシジミは、涸沼の名産となっています。また、周縁性淡水魚が見られます。(代表的な魚種・ボラ・スズキ・マハゼなど)

魚たちにとっての涸沼

涸沼や流入河川には、魚をはじめとするたくさんの生き物が生活しています。産卵場所は水生植物、川底、湖岸底の砂、湖底に掘った穴の中、さらには貝殻、や二枚貝の体内(鰓や外套膜)などいろいろあります。涸沼の魚類が安定して生息できるためには、良好な水質や生息するための場所(環境)が整っている必要があります。

涸沼はラムサール登録湿地に

2015年、涸沼は県内単独としては初のラムサール登録湿地となりました。

写真の一部は川島省二氏と茨城県水産試験場内水面支場のご協力をいただきました。

川の上流



カジカ 【カジカ科】
淡水で過ごす河川陸封性の大型(15cm)と海で過ごし遡上する両側回遊性の小卵型(17cm)がある。



カワムツ 【コイ科】
全長15cmほど。動物食性傾向の強い雑食性で水生昆虫、甲殻類、小魚、藻類などを食べる。

川の中流・下流



オイカワ 【コイ科】
全長15cmほど。草食性傾向の強い雑食性で、藻類や水草、水生昆虫、小型甲殻類などを食べる。



モツゴ 【コイ科】
全長8cmほど。水質汚濁への適応力が高い。雑食性である。



ヌマチチブ 【ハゼ科】
全長15cmほど。雑食性で、藻類や小動物を食べる。気が荒く、縄張りをつくる。



カマツカ 【コイ科】
全長20cmほど。水生昆虫などの底性の小動物や有機物を底砂ごと口から吸い込み食べる。